

学校番号	26	学校名	静岡県立富士東高等学校	校長名	朝倉 徹
------	----	-----	-------------	-----	------

取組目標	成果目標（〔育〕…学校評価における肯定的評価の割合）	達成状況（丸数字は学年）	評価	成果と課題	
ア	自己の在り方 生き方を主体的に深く考え、その実現に向けて粘り強く切磋琢磨する生徒を育てる。	・学校で課された共通の課題に加え、予習・復習を含めた自主的な学習をしている生徒／70%以上	①57.4%②63.7%③90.2% 全体71.5%	B	・全体としては70%を超えているが1、2年生におけるプラスαの学習の定着が課題。 ・1、2年生における家庭学習時間伸長のための仕掛けを工夫する。 ・駿台atama+を、学年部の協力を得て実施した。さらに効果的に活用できるよう工夫する。 ・結果分析会は、年度初めに各学年の性質を把握する有益な時間であるので継続する。 ・進路支援体制の満足度が保護者も含め目標値に達した。 ・3年間の学年団の粘り強い指導により共通テスト受験率100%達成した。 ・生徒の進路公方を踏まえ、前年度から人選を進める。自己の在り方生き方を考える取組を一層充実させたい。
		・1週間の家庭学習時間の平均／1年14h 2年16h 3年32h	①9.4h②9.7h③33.8h	C	
		・駿台atama+の効果的な活用／1、2学年	年6回実施した。積極的に活用した生徒が多かった。	B	
		・スタディーサポート結果分析会／全学年で実施	全学年で実施した。	A	
		・生徒の進路希望実現のための、個に応じた学習支援や進路支援体制が整っている／〔育〕80%以上	①92.0%②91.4%③84.2% 保80.0%教85.7%	A	
		・大学入学共通テスト受験率／100%（3年生）	100%	A	
		・進路閲覧室の充実を通して、必要な進路情報を適切に発信している／〔育〕90%以上	①92.0%②91.4%③94.5% 保84.1%教91.7%	B	
		・外部検定に挑戦する生徒／50%以上	①13.3%②29.2%③29.6%	C	
イ	探究心をもって問いを立て、多様な人々と協働しながら根拠ある解決策を導き出す学習活動を充実させる。	・PTA職業講話、卒業生進路講話が有意義だったと答える生徒／それぞれ80%以上	P①87.7%②91.8% 卒①92.5%②94.7%	A	・静岡県立大学の学生サポートは生徒の学習や課題解決に大きな刺激を与えている。来年度以降の継続についても検討する。 ・探究教材『QuestionX』を活用し、自分ごとになる課題設定を促した。 ・外部との接点を持った生徒は、昨年度よりは増加したが、まだ一部にとどまる。 ・探究活動に前向きに取り組む生徒が多いので、外部への発信の機会を検討したい。 ・次年度だけでなく、令和8年度も見据えて教育課程の検討を行っている。
		・学生サポート満足度／80%以上	①90.1%②92.9%	A	
		・自身が解決したい課題を明確にできた生徒／90%以上	①91.3%②88.3%	B	
		・探究活動に前向きに取り組んだと答える生徒／70%以上（情報収集、整理・分析、まとめ・表現の達成度）	①88.9%②91.2%	A	
		・外部との接点をもった生徒／100%	①18.0%②10.0%	D	
		・探究活動を積極的に発信した生徒／10%	①2.5%②2.4%	D	
		・年度末までに令和7年度入学生版「しのめ探究」3年計画を作成	DXハイスクールとしての取組を踏まえつつ、探究活動の内容について検討している。	B	
		ウ	各教科における指導と評価の一体的な充実を通して、質の高い学力を育む。	・年間指導計画に基づいた「指導と評価の計画」の見通しをもっている教員／100%	
・単元ごとに「問い」の設定と「成果」の想定をした教員／いずれも90%以上	問い90.3% 成果93.5%			A	
・毎時または単元の始めに、課題（問い）の見通しをもっている生徒／80%以上	①70.3%②86.2%③76.7%			B	
・毎時または単元の終わりに、自らの学習状況を把握している生徒／80%以上	①65.8%②77.2%③81.6%			B	
・毎時または単元の終わりに、その後の学習への目標や課題を意識している生徒／80%以上	①66.7%②72.5%③73.5%			B	
・授業で自らの「思考力」「主体性」「コミュニケーション能力」を使う場面があると答える生徒／100%	思①94.4%②94.7%③91.8% 主①91.4%②94.2%③83.1% コ①92.0%②93.6%③88.8%			B	
・ICT活用や協働的な学び等を通した、魅力ある授業を展開している／〔育〕80%以上	①84.7%②88.6%③76.2% 保88.5%教91.7%			A	
・Google Classroom、ロイロノート、Cラーニングを授業で活用した教員／70%以上	67.7%			B	
・1人1台タブレットを活用したと答える生徒／80%以上	①85.8%②77.8%③49.7%			C	
・11月までにR7乙変更の大筋を決定	教育課程検討委員会を重ね、決定できた。			A	

様式第3号

取組目標		成果目標 (〔肯〕…学校評価における肯定的評価の割合)	達成状況 (丸数字は学年)	評価	成果と課題
エ	学習・特別活動・部活動の両立を通して、知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育成し、人格の完成を目指す。	・図書館の充実、読書週間の設定など、読書をする環境が整っている／〔肯〕80%以上	①90.7%②91.4%③85.5% 保88.4%教97.1%	A	・読書しやすい環境の整備を継続する。 ・読書を通じた知識・教養の獲得には一層の工夫を要する。 ・生徒は特別活動・部活動に主体的に参加し、満足度も高い。 ・今後、少人数の部活動が増えることも見込まれ、工夫した活動が求められる。 ・時代の要請を踏まえた部活動の在り方を引き続き検討するとともに、部活動ガイドラインの遵守を徹底する。 ・行事や部活動を通じた人間関係づくりは、概ね達成できた。 ・体調不良による欠席や不注意による遅刻も見られる。基本的生活習慣の確立を継続指導していきたい。 ・交通ルール遵守やマナー向上に向けた注意喚起を日常的に行った。 ・共生・共育委員会を通して、富士東分校との共生・共育の在り方を模索した。 ・健康状態に対する意識向上のため、朝の健康観察について担任からの声掛けなどで徹底していく。 ・1、2年生へのハイパーQ心理テストの実施、1年生の3分間カウンセリングや適時の教育相談を通じて、個に応じた指導の充実を図った。
		・読書週間に視野を広げたり知識を得たりできた生徒／70%以上	①54.9%②73.1%③58.5%	B	
		・主体的・積極的に学校行事や部活動に参加する生徒を育成している／〔肯〕90%以上	①93.2%②92.5%③87.6% 保92.4%教86.1%	B	
		・生徒の東雲祭、球技大会への満足度／90%以上	文化の部94.7%体育の部100% 球技大会95.1%	A	
		・生徒の部活動への満足度／各学期80%以上	1学期96.5% 2学期97.6%	A	
		・部活動ガイドラインの順守／100%	91.2%	B	
		・学校行事や部活動等を通じた良好な人間関係づくりを指導・支援している／〔肯〕90%以上	①93.8%②89.1%③85.2% 保91.6%教88.9%	B	
		・基本的生活習慣を確立するための指導が行われている／〔肯〕90%以上	①87.7%②89.1%③79.6% 保89.9%教80.6%	B	
		・挨拶運動／月1回	月1回の挨拶運動を実施した。	A	
		・生徒の安全確保、交通事故防止など、安全指導に努めている／〔肯〕90%以上	①95.7%②93.7%③86.1% 保93.1%教94.4%	A	
		・分校と合同の防災訓練、参加体験的に学ぶ防災講座を実施	グラウンドへの避難訓練と防災講座を分校と合同で実施した。	A	
		・朝の健康観察を通して、自己の健康管理に努めている生徒／90%	①63.6%②75.5%③63.4%	C	
		・共生・共育委員会を核とした富士東分校との交流及び日常的な連携	交通安全教室、東雲祭、芸術鑑賞会などの行事に加え、ランチ会、SNS投稿などを実施した。	A	
		・生徒一人ひとりの人権尊重と、多様な背景を持つ生徒の理解・支援に努めている／〔肯〕90%以上	①90.8%②90.3%③87.2% 保88.8%教86.1%	B	
オ	新しい時代の学びを支える教職員の資質・能力の向上を図り、カリキュラム・マネジメントを推進する。	・GP(グラデュエーション・ポリシー)・CP(カリキュラム・ポリシー)の実現状況／〔肯〕生徒・保護者・教職員それぞれ80%以上	①90.7%②91.3%③89.5% 保90.3%教84.1%	A	・校内掲示等により、生徒に日常的にGP・CPを目にする機会をつくり、実現に向けて教員も含めて意識の共有を図った。 ・公開授業と相互参観に取り組みやすい環境の設定が必要である。 ・先進的な取組を行う学校等への視察から知見を得ることは重要であり、今後、機会を設けて実施する。 ・教員の指導力向上のために大学入試研究を継続する。 ・セルフチェックが形骸化しないよう、機会あるごとにコンプライアンス意識を向上させることが必要である。
		・少人数ユニットを活用した一人一公開授業と相互参観実施	公開授業期間や研修に合わせて計画したが、相互参観があまりできなかった。	C	
		・学習評価、ICT活用に係る全体研修実施	年間3回実施した。	B	
		・県外視察、研究会等に派遣し、報告会により全教員にフィードバック	1月末の段階で実施できていない。	D	
		・夏季休業中における「大学入試研究」実施を通じた自己研鑽／一人1大学	夏季休業中に一人1大学の入試問題研究を行い、生徒に提供した。	A	
		・不祥事根絶セルフチェック／遵守率90%以上	第1回99.3% 第2回99.2%	A	
カ	校内外の環境整備に努めるとともに、学校の取組を社会(保護者・地域)に開く。	・本校の施設・設備は整備されており、良好な教育環境が保たれている／〔肯〕80%以上	①83.4%②86.9%③76.7% 保78.1%教72.2%	B	・小破修繕は随時対応し、大規模改修を実施するために予算要求しながら環境整備に努める。 ・教育環境の美化、施設・設備の維持管理に努めた。生徒の取組状況も良好であった。 ・現状把握と速やかな対応のため、今後も定期的な点検を実施する。 ・Cラーニングの活用による校務の効率化が実現しており、自己採点システムも利用が拡大した。 ・ホームページのリニューアルを実施した。SNSを含め、引き続き広報活動を充実させ、学校の魅力発信に努める。
		・校内の清掃指導、美化活動に十分取り組んでいる／〔肯〕80%以上	①89.0%②90.8%③84.7% 保89.0%教83.3%	A	
		・専門委員による環境衛生活動及び点検／週1回	水質検査及び手洗い場の点検を毎日実施した。	B	
		・清掃・安全点検／月1回	月1回以上の巡視を行い、安全点検を実施した。	A	
		・Cラーニング活用促進、自動採点システムの本格導入	Cラーニングを掲示板、連絡・相談、健康観察、出席管理、アンケート等に活用。自動採点システムの利用も拡大した。	A	
		・ホームページ、公式SNSによる発信／日平均1回以上	HPをCMSに移行し、リニューアルした。SNSは、目標には達しなかったが、生徒の日常を発信した(Instagram279回投稿)。	B	
		・日々の教育活動などを積極的に広報・発信している／〔肯〕90%以上	①93.9%②94.9%③94.1% 保92.7%教88.9%	B	